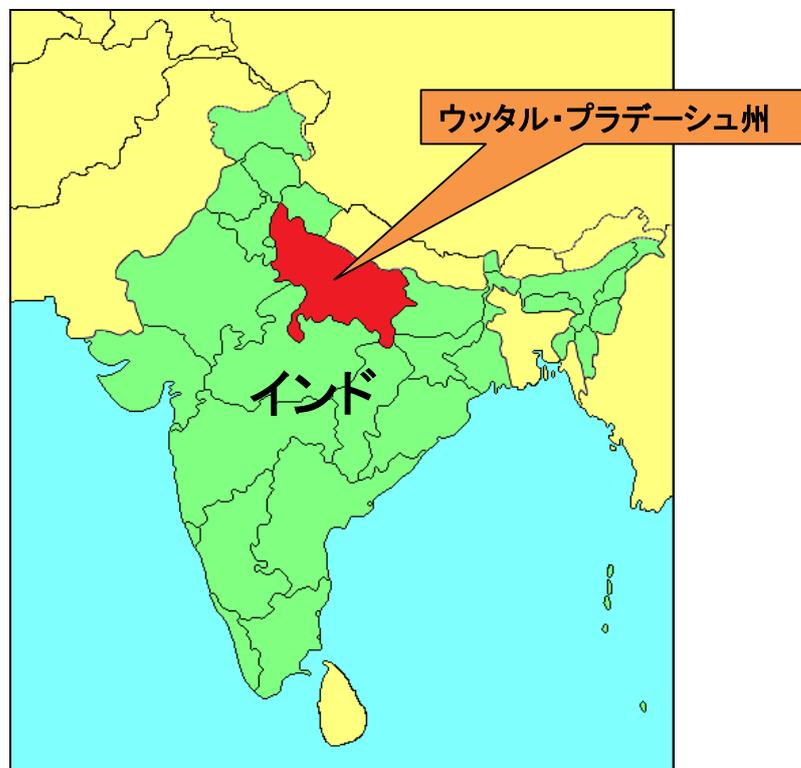


インド ウットル・プラデーシュ州で脳炎が流行

2011年10月4日 ProMED 情報(News24,Press Trust of India(PTI) report)



ウットル・プラデーシュ Uttar Pradesh 州東部で、過去 36 時間に新たな脳炎死亡患者が発生し、死亡患者数は 376 名に達しました。このうち 44 名は、種々の脳炎で 10 日間に発生しました。また、現地の公立病院に脳炎で入院した患者数は 2,480 名で、376 名が死亡したとのことです。専門家によると、流行している主な脳炎は 2 種類で、蚊に刺されて発症する日本脳炎と、もう一つは不衛生な水を飲むことによるタイプです。両者とも、媒介動物により感染する疾病であるとのことです。

【ProMED 調整者】

ウットル・プラデーシュ州では、脳炎が引き続いて報告されていますが、原因は未だ不明です。また患者 2,480 名のうち、どのくらいの割合が日本脳炎によるかも不明です。汚染された水が疑われていますが、エンテロウイルスかもしれません。媒介動物による感染とも述べられており、混乱を生じています。